

領内出張所では、みなさまのご意見をお聞きしたく各ご家庭への訪問調査を行いたく準備を進めております。準備ができ次第、ご連絡をさせていただきますのでご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

聞き取り調査とは？ 職員 2 名がご家庭にお邪魔させていただき、現在の生活の状況などを質問しながらお聞かせいただきます。

いつ来るのか？ 事前にお電話などで、日時を調整させていただきます。

聞き取った結果は？ 領内地域の課題を確認。地域が元気になるような方針を探します。また、調査で得た個人情報厳重に管理します。

大台町立図書館 リサイクルフェアの延長について(第 1 回 6 月 30 日終了)

図書館の所蔵期限の過ぎた蔵書をみなさまに差し上げます。

期 間 平成 22 年 7 月 16 日(月)～30 日(金)

時 間 午前 8 時 30 分～午後 5 時まで 但し土曜・日曜・祝日は除く

場 所 領内地域総合センター 1 階



この時期は、食中毒が発生しやすい時期です。細菌が原因とされていますので

食中毒にならないように、3つのポイントを実践しよう！

清潔 細菌をつけない

手洗いの励行

包丁・まな板・ふきんの殺菌

調理場内の整理整頓

ハエ・ゴキブリの駆除

迅速 細菌が増える時間を与えない

速やかに調理をして早めに食べる。

調理後 4 時間以内に食べると安全圏

加熱または冷却 殺菌・菌を増やさない

十分な加熱(中心温度 75℃ で一分以上)を。

冷蔵庫は、10℃ 以下、冷凍庫は-15℃ 以下の

温度設定を。



あとかき

第 1 号を発行してから、たくさんの方々とお話をさせていただく機会が増えました。その中で新たな発見や地域の良さを再確認できたと思っておりますが、まだまだ動きだしたばかりでもっと皆様とお話ができる機会をいただきますようお願いいたします。また領内出張所のブログも順調に更新しておりますのでパソコンをお持ちの方はご覧ください。 <http://www.odaitown.jp/ryonai/index.html> また、E-mail(ryonai@odaitown.jp)で情報をお待ちしております。(久保)

領内出張所 だより

第 2 号

平成 22 年 7 月 15 日発行
領内出張所 77 - 2001

暑中お見舞い申し上げます。

いよいよ梅雨もあけようとしておりますが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。

この時期は、特に熱中症や食中毒には十分ご注意ください。

「昔の写真」を第 1 号にて、募集させていただきましたところ 6 件もご連絡をいただきました。昔の貴重な写真やその当時のお話も記録として残していきたいと思っております。今後も引き続き募集をつづけてまいりますので、皆様のご連絡をお待ちしております。

どのような写真を探しているの？ 領内地区を主とする景色・建物・行事・自動車など

昔の写真の紹介

昭和初期の領内小学校運動会の綱引きの様子を撮影したものです。当時は、まだ洋服が主流ではなくて和服の方が多かったそうです。



領内尋常高等小学校本校(小滝)と分校(南)を統合して、昭和 4 年 8 月に木造 2 階建の校舎が完成し、昭和 62 年までの長きにわたり多くの卒業生を送り出しました。



第2号からはじまる。ペンリレー1番手は大井在住の上平 仁美さんに投稿をお願いしました。

領内に関する自然・歴史・思い出などを書いてみませんか、「領内出張所だより」に掲載いたします。せひともご連絡をください。



南地内から見た領内橋

「故 村長地崎國太郎さん」

清流、日本一が誇る宮川の溪谷は四季を通して見飽きることがなく、殊更領内橋から眺める景観は素晴らしい。

青葉若葉のしたたる「咳の谷」の広場に建立されている「功德碑」を仰ぎ見ると、当時の領内村村長さんは、わが大井の里の地崎國太郎さんだった。

明治三十八年から大正九年まで、領内大杉谷組合村長として、大正九年から昭和九年まで領内村村長として三十余年にわたって、村道、県道の拡張、学校統一等事業を完成なさった。

特に、領内地区の南岸道路と北岸道路とを結ぶ領内橋が最短距離の小滝と南に架橋されたのは大正十三年のことである。

重量四トンの橋の設計から工事に至るまで

雄大な計画に対する心労を想像すると橋への悲願が偲ばれる。

架橋以来、実に八十七年間の長期にわたり、住民の往来を支えてくれたし、今後も、支えてくれるだろう。

あの平成十六年の台風二十一号にも、自然石を重ねた橋脚はびくともしなかった。

大正時代の山深き領内地区は、不便で自由だったことを想像する時、村長さんの先見の明に感嘆するばかりだ。

六十二歳で亡くなられるまで、人生の大半を、わが郷土の発展のために「尽力賜ったのである。

地崎村長は、長期にわたり、私財を提供なされた上に、無報酬で貢献なさったと聞き及び、その懐の深さに感動を覚えた。私はせめてお墓参りだけでもさせていただけようと墓石に額づくくと、五月十二日は、くしくも祥月命日であり、しみじみとご縁を感じた。

昭和十一年五月十二日 歿

昭和十一年五月十六日 村葬式

勲八等 俗名地崎國太郎 行年六十二歳
慈明院扶桑如意安國居士

来年は米寿迎える領内橋

地崎村長の御魂に謝する

合掌

上平 仁美